

項目	説明	
試料・情報の	研究課題名	進行卵巣癌初回治療後 PARP 阻害薬による維持療法中の再発様式に関する検討
利用目的 及び 利用方法	研究対象者	2020 年 1 月から 2025 年 7 月の間に卵巣・卵管・腹膜癌 III・IV 期と診断された患者さんのうち、神奈川県立がんセンターで初回治療後に PARP 阻害薬（リムパーザまたはゼジューラ）による維持療法を受けた方
	研究目的	卵巣・卵管・腹膜癌 III・IV 期の患者さんでは初回治療が奏功した場合も再発率が高いことが知られています。初回治療後に PARP 阻害薬を用いた維持療法を行うことで、再発率を低下させたり、再発時期を遅らせたりすることができる、ということがわかってきました。それでもなお再発率は高く、PARP 阻害薬を使った後に再発した場合、どのような経過をたどるのか、どんな治療が適切かなどを明らかにする必要があります。本研究では、実際の再発率や時期、部位、その後の治療と奏効率を調べることを目的としています。
	研究方法	診療録による後方視的研究
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように管理します。
	研究期間	西 暦 2 0 2 6 年 1 月 2 6 日 ~ 西 暦 2 0 2 7 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供 を開始する時期	[X] 総長が研究実施を許可した日 [ ] 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック [X] が入った項目を利用します）	[ ] 試料:	[ ] 血漿、[ ] 血清、[ ] 全血、[ ] 末梢血から抽出した DNA、 [ ] 病理検体(具体的に記載: _____)、 [ ] 尿、[ ] 糞便、[ ] 唾液、[ ] 胸水、[ ] 腹水、[ ] 脳脊髄液、 [ ] 毛髪、[ ] その他(具体的に記載: _____)
	[X] 情報:	[X] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X] 年齢、[ ] 生年月日、[ ] 性別、[X] 既往歴、[X] 併存疾患、[ ] 外来日・入院日・退院日、[X] 臨床検査値、[X] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X] 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[X] ゲノムデータ、[X] 看護記録、[ ] その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 婦人科 横澤智美
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	施設名・所属・氏名・連絡先 神奈川県立がんセンター 婦人科 横澤智美 045-520-2222  利用停止のお申し出は 2026 年 2 月 28 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	